

コナラ属 ブナ科

・学名 *Quercus* spp. (spp. は複数種のことです)

朝と夜の冷え込みも日ごとに強まり、冬が近づいてきたと感じる季節となりました。園内の植物も、紅葉を始めたり、葉を落としていたりして冬を迎える準備を進めているようです。どんぐりがなる木もハイロチョッキリにチョッキリされたものだけでなく、実ったどんぐりをどンドン地面に落としていっています。

どんぐりを「落とす」イメージが強いコナラ属の木々たち。落葉する種が多いのかと思いきや、意外にも常緑樹もたくさん存在するようです。コナラ属に属する種は世界に約390種もあると推定され、ブナ科の中でも最大の種数を誇り、「コナラ亜属」と「アカガシ亜属」に二分されます。コナラ亜属は、落葉樹が多く、殻斗の表面がうろこ状であることが特徴です。ライオンのたてがみのような殻斗に包まれたクヌギやアベマキもこのグループに含まれます。一方、アカガシ亜属は常緑樹で殻斗の表面が横縞模様になっています。

コナラ亜属

殻斗がうろこ状・落葉樹(例)



↑ウバメガシの葉



↑アラカシの葉とどんぐり

コナラ亜属がユーラシア大陸の内陸部を除く北半球全体に分布しているのに対し、アカガシ亜属はアジア固有の属となっています。コナラ亜属とアカガシ亜属は上記の情報だけでも、分類しやすいように感じますね。

しかし、それらの特徴に反した異端児がコナラ亜属に存在します。それは「ウバメガシ」です。この種はコナラ亜属でうろこ状の殻斗を持つのもかかわらず、常緑樹であるという特徴を持っています。しかも、他のコナラ属に比べて極端に葉が小さく、樹木自体の大きさも小さいです。そんな、コナラ属の変わり者のウバメガシですが、幹が硬いことから備長炭の材料として私たちの生活をひそかに豊かにしてくれている種でもあります。

これで、帽子の形の殻斗を持つどんぐりがコナラ亜属なのかアカガシ亜属なのか分かる、と思いきや、コナラにそっくりなどんぐりが成る種があります。それは「マテバジイ」です。どんぐりの形はコナラに似ますが、こちらはオニガシ属に属します。見分け方としては、どんぐりの付き方に注目してみてください。コナラ属のどんぐりは枝にひとつひとつ着いているのに対し、マテバジイのどんぐりは殻斗が一点に3つ集中してついています。



一口にどんぐりといってもその多様性は興味深いものがあります。文化公園ではどんぐりのなる木が名前のラベル付きでまとまって植えられている場所があります。(以下に記します)ラベルで名前を確認しながらどんぐりのなる木の多様性を楽しんでください。

(龍谷大学先端理工学部・栗原萌葉)

❁ どんぐりのなる木のいろいろにラベルがついているのは このへん です。

(クリックで Google マップにリンク。10m 程度の誤差が出ることがあります。)